

平成28年度 第1回総合教育会議議事録

- 1 日 時 平成28年7月8日（金） 午後2時30分
- 2 場 所 役場3階中会議室
- 3 出席者 当別町
宮司町長
当別町教育委員会
白井委員長、武岡委員、寺田委員、小林委員、本庄教育長
- 4 説明員等 当別町
企画部長 二木勝義
企画課長 長谷川道廣
総合企画係長 小畑孝尚
- 当別町教育委員会
教育部長 野村雅史
管理課長 山崎一
社会教育課長 小出真二
子ども未来課長 須藤政信
管理課主幹 村上賢二
管理課主幹 水谷純
- 5 傍聴者 なし

6 議事の要旨

(開会)

企画部長： 定刻となりましたので、平成28年度第1回当別町総合教育会議を開催いたします。

次第に沿いまして、まずはじめに宮司町長よりご挨拶をいただきます。

(町長あいさつ)

宮司町長： 昨年4月にすべての市町村に設置が義務付けられた総合教育会議ですが、昨年度は、皆様のお知恵をお借りしながら、当別町の教育施策の根本的な方針となる教育大綱を協議し、策定することができました。

今年第1回目の会議でございますけれども、私と皆様方で相互に

教育課題等を共有し、教育大綱に沿った施策の展開がスムーズに実現できるようしっかりと議論をしていきたいと考えております。

次第では、まち・ひと・しごと創生総合戦略と一貫教育の推進に向けた協議となっておりますが、忌憚のない意見交換をさせていただきたいと思っております。教育の諸課題の解決は一朝一夕にできることではないですが、ここで議論を進めて当別の子どもたちの学力の向上などに向けて知恵を出し合っていきたいと思っておりますのでよろしくお願い申し上げます。

企画部長： ありがとうございます。

企画部長： 続きまして、白井教育委員会委員長よりご挨拶をいただきます。

(教育委員会委員長あいさつ)

白井委員長： 去年は教育大綱を策定いたしました。今年度最初の総合教育会議ということで、私どもといたしましても、町長と当別町の今日的な教育課題につきまして意見を交換できる貴重な機会であります。後ほど担当者から小中一貫教育の推進に向けて説明をさせていただきますけれども、各学校間の連携も緊密に進めているところでございます。校長先生から示される学校通信についても、6月頃から保護者向けに小中一貫教育の発信をしておりますので少しずつではありますけれども外堀を埋めて来年度の本格実施に向けて準備を進めているところでございます。加えて、コミュニティースクールについても教育懇談会を設けて委員の委嘱を先日させていただきました。折角の機会でございますので、昨年、町長に視察いただきました当別中学校の老朽化した施設の問題は、喫緊の課題でありますし、勿論、こればかりではなく、図書館の問題等もありますけれども、建設的、発展的な意見を集約しながら、一定の目途に言及できるような有意義な会議体となることを切望しているところでございます。先日の町村教委連の委員研修会では、結局教育は「てまひま」の問題だと、金をかけてしっかりやることが大事なんだということですので、その辺りも踏まえまして進めていければと思いますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

企画部長： ありがとうございます。それではこれより議事に入ります。進行につきましては宮司町長の取り進めによりお願いいたします。

【(1) 当別町まち・ひと・しごと創生総合戦略について】

宮司町長： それでは、当別町まち・ひと・しごと創生総合戦略について、事務局から説明をお願いいたします。

企画課長： (資料により説明)

宮司町長： ただ今の説明に補足すると、人口増につながっていくことは、税収の確保に加えて、雇用の創出を図ることです。駅前開発や移住促進などは外から人を呼び込んで人口を増やそうとするものです。当別町に住む人の数を増やさないと、人口が2万人いた頃のインフラを十分に活かしきれないので、活かしきることをポイントとしています。このプランは改善をしていくこととしておりますので、ぜひ皆様には、今の説明についてご意見なりご質問なりをお伺いしたいと思います。

本庄教育長： 太陽光発電の取り組みについては、子どもたちの環境教育にもいいのではないかと考えています。木質バイオマスに使用する燃料を当別町の木材を利用するとか、町内に燃料をつくる工場があったりとか、エネルギーの地産地消ということができればいいと思います。

企画部長： 木質バイオマスの事業化に向けていろいろと検討をしています。昨年度、総合体育館のボイラーの更新時期を迎えているということで、ペレットボイラーに変更をしたところですが、そこで使うペレットは町内に加工製造する工場がないものですから、町外から購入して使っているところです。当別町全体では行政面積の60パーセント以上が森林となっていることから、ここを原料の供給源にしようとするをまさに今検討しているところです。子どもたちへの

教育という意味では、実際に町内でみせることのできる施設がないですが、将来的には環境教育の学習教材として活用できることも考えております。

本庄教育長： 子どもたちに資源の循環型活用が見せることができれば、大変いい教育ではないかと思っておりますので、ぜひよろしく申し上げます。

宮司町長： この事業は、当別の資源を有効活用することに目的があつて、それには、需要がないと叶わないわけですから、まずは、そういった事業環境を整えるところからやっていきたい。将来的には、当別町を再生可能エネルギーの供給基地にしたいというところを目標にしております。学校施設にソーラーを設置することは前からお願いをしているところですが、そういった議論はどこまで進んでいましたか。

教育部長： 7、8年前に議論がされておりましたが、結果としてパネルの設置には至りませんでした。

企画部長： 教育的にということであれば、総合体育館に設置しているパネルであれば、体育館内に発電状況がみれるモニターを設置していますので、それを活用できるものと思います。

武岡委員： 要請があれば民間企業が学校にパネルを持って出向いて、こうやって発電するのですよという出前授業ができるのでそういったものを活用できればいいのではないかと思います。

小中一貫教育の推進ですが、小学校から始めるのではなく、幼保小中一貫教育で進めるべきだと思います。先日、夢の国幼稚園に行つて視察をしてきましたが、人手が足りないということでした。どんなところに力を貸していくことができるのか、町として意見を聞いて、予算措置が可能であれば、公立か民間かを区別せずやると一貫教育がより効果的に進み、ひいては学力向上につながるのではないかと思います。夢の国幼稚園はこれまで実施していな

かった子どもへの図書の貸し出しを始めていただきました。そういった取り組みを支援できればいいのではないかと思います。

宮司町長： 幼保に関していえば、もともと公立だったものを民間にした時点で、連携が不十分だったかなと思います。民間では、利益を考えなければならぬ面もあるので、経営状態によっては、質が確保できない恐れがある。教育の質を保つためには、町が適切に支援をすることも必要だが、町に依存しすぎると自分たちで問題解決できなくなることから、町としては、幼保の担当部局を福祉から教育に変えたという経緯もあります。できるだけ教育委員の皆さんの応援を得て進めていきたいと思っています。

小林委員： 人口増ということを掲げられていますが、幼稚園の先生方の人手不足というところには、求人募集をしても、札幌市に集まってしまってなかなか当別町まで来ていただけない。先生が集まらなると、3人に1人先生が付かなくてはならない0歳児の受け入れができずに、待機児童が発生してしまう。先日の視察では、先生の確保で苦労しているということをおっしゃっていたので、その対策を練っていかなければいけないと思いました。

白井委員長： 町長も時間が合えば、夢の国幼稚園に行って現況を一緒に見に行きましょう。

宮司町長： そうですね。今年度も3カ月を過ぎ、幼保小中の連携に向けた感触も確かめなければならないと思っていたので、太美の保育所も含めて皆さんと一緒に行きましょう。

寺田委員： 先日の視察では、授業で運動会の練習をしていた5歳児のクラスを見させていただきましたが、怪我をしてうまく登り棒を登れない子どもをみんなで一生懸命応援していた姿を見て大変感動しました。それを見て、先生方の指導などの内容は素直にいいなと思いました。

武岡委員： 西当別と当別の教育内容に差をつけてほしくないと思っていて、西当別で行っている本の貸し出しを当別でもやってほしいし、そのことを夢の国幼稚園の理事長にお話しすると、検討していただけるとのことでしたので、まずは意見を聞いていただくところからやっていければと思います。

宮司町長： それでは、次の議事に移ってもよろしいでしょうか。小中一貫教育についての推進状況について教育委員会事務局より説明をお願いします。

管理課主幹（一貫教育推進担当）：(資料により説明)

宮司町長： 小中一貫教育への取り組みは、これから本格的になるようですが、これまで教育に携われてきた立場として、教育委員の皆様の一貫教育に対して抱かれた感想や意見をお聞かせいただければと思います。

武岡委員： 小中の垣根が低くなっていくことは大変いいことだと思っています。先日の町村教委連の教育委員研修会で文部科学省の藤原視学官がおっしゃっていた中で、次の学習指導要領の改訂のポイントは社会に開かれた教育課程だということでした。カリキュラムに関して言うと、現場の先生が使えるということが前提です。どうやったら先生方が使えるのかという視点でつくることが重要です。何のためにカリキュラムを作るのかということをもう一度しっかりと考えてもらいたいと思います。当別学をどうするかだとか、英語教育をどうするかだとか考えなければならないし、カリキュラムに盛り込んでいかなければならない。総枠は決まっているわけですから、盛り込むとどこかを削らなくてはならない。例えば、各学年9割の時間で組んで、後の1割は浮いた時間として3・4年生で習う算数の時間に厚くあてるとか、1年生、2年生で実施する英語の時間を週2時間にするなど、余剰時間をつくる必要があるのではないか。今でも余剰時間をつくることは各学校でやっていると思います。そういった根っこがほしい。そういう見通しをカリキュラム部会でやっ

ていただけたらなと思います。

宮司町長： この資料では、どのようにカリキュラムが変わるのがはっきりとわからない。小中一貫教育になったらこう変わりますといったものを見せてもらわないとならないと思いました。

武岡委員： 子どもには差があって、転換点で落ちこぼれる子どもたちも出てくる。そこに人をつぎ込んで、丁寧に教えてやらないと底上げができないとカリキュラムをつくっている先生方はわかっています。そういったことができるようにする予算はどこから出てくるかはわかりませんが、人の手厚い配置について、お願いできたらなと思います。

管理課長： 平成28年度からは、小中一貫教育推進講師という形で非常勤ではありますけれども、当別と西当別に1名ずつ配置をしています。学校の希望とすれば、日中フルタイムで勤務できる先生をとということですので、平成29年度はこれまでより一歩進んだ形で進めることができないか、財政を含めた協議をしていかなければならないと考えております。

宮司町長： カリキュラム部会のメンバーはどういう方々がやっているのでしょうか。

管理課主幹（一貫教育推進担当）：教科ごとに部会を設置してまして、教頭、教務担当教員、外部アドバイザーとして北海道教育大学と北海道科学大学の先生にお願いしています。

宮司町長： 一貫教育を進めるにあたってポリシーが非常に重要なことであって、そういうことが決まっていないとカリキュラムなんて組めない。まずはそういうことをカリキュラムを決めている人たちがまとめることが必要ではないのか。コンセプトがないと個々のものを作っても整合性がとれない。

白井委員長： 基礎基本の定着というところでいけば、エリート教育をすると落ちこぼれていく生徒が必ず出てくるわけです。ある程度の基礎基本の定着を見たうえで、習熟度学習によりできる生徒はより伸ばしていく、できない生徒は手厚く指導をしていくといった2本立てでいかないといけないと思います。

宮司町長： 落ちこぼれた生徒は補習でカバーしていくしかないと思いますので、その補習授業を作っていけばいいのではないかと。その補習を手厚くやるために手だてを考えていくことが必要だろうと思う。

本庄教育長： 小中一貫教育を進めるにあたって現在作成しているカリキュラムは、9年間の学習内容を8年間で修了させようとするものではないことを理解いただきたい。

管理課主幹（一貫教育推進担当）： カリキュラムの作成にあたって、実際、当別小学校、当別中学校で系統表の整理を行ったとき、かなりの時間を要しました。これはある程度先生方が時間の少ない中で整理していただいたので仕方がないところがあるのですが、小学校と中学校の先生と一緒に作業をしたということが、教育委員会としては第一歩なのかなと思っています。中学校では、特定の教科の先生がその教科の1年生から3年生までの全部を見る、小学校では、教科担任ではないので、4年生の先生は4年生の部分しか見ない。そういった中で先生方が集まって担当以外のところを見ることができたことは、評価をしたいと思っています。勿論これはとっかかりの部分であって、これができることによって、実際の授業では系統表を見ながら指導することができる。実際には先生方は学習指導要領を見ながら授業をするわけではないので、こういった形のものが整理できたことで、授業の改善につながるものと考えております。

本庄教育長： この会議において実際に授業で使えるカリキュラムを作成してほしいといった意見がでたことを、カリキュラム部会に伝える。

白井委員長： 小中一貫教育の目的の一つは先生方の意識を変えていくということが大事ではないかと思います。

宮司町長： やはりカリキュラムを作らなければならないというのであれば、作ることによってこう変わるというところをしっかりと見せなければならない。カリキュラムの対比表を作って見せてもらうことが我々にとって一番理解がしやすい。それを見て、いやいやそれでは、落ちこぼれがでる。落ちこぼれが出るのは、こことそことあそこだというのは先生方が一番わかっているのだから、その学習内容を手厚くするために、補習を実施するから、予算がこれだけかかります。というのが必要だと、私は思っています。

白井委員長： 町長のおっしゃるとおりで、課題として出てきたところには手厚く予算をかけてやる必要があると思います。

宮司町長： 教育にお金をかけてやらなければならないのは当然で、ましてや一貫教育という新しいことをやろうとするのだから、当然予算がかかってくる。その新たにかかる予算を少なくしていくために皆さんで考えてやっていかなければならないと思います。

白井委員長： 一体型ではなく、分離型で進めるということは、カリキュラムを大きくいじらなくても、小学校でやること、中学校でやることは大きく変わらないでしょう。先生方の意識を変えていくことに力点を置いて進める必要があると思います。そうしたうえで、より効果的なカリキュラムをつくっていくことがいいのではないかと。

宮司町長： 一貫校だからできて、一貫教育だからできないといった考えは捨てるべきだと思う。カリキュラムでは、一貫校だからできてそうできないからできないということは全くないと思う。子どもたちを移動させる時間をどうするかという工夫は必要だが、分離型だからしょうがないよねと言っているとしたら、いいものはできないと考えま

す。この議題については、課題もたくさん出てきたように感じましたけれども、この議論を踏まえて教育委員会事務局でもさらに考えていただくこととして、時間もなくなってきたので、この議題はこのあたりでいいでしょうか。

(異議なしの声)

宮司町長　それでは、ここにある議題については、これで終了とさせていただきます。

(閉会)

宮司町長：　これで平成28年度第1回当別町教育総合会議を閉会いたします。
お疲れさまでした。

閉会　午後4時23分